

資料－ 5

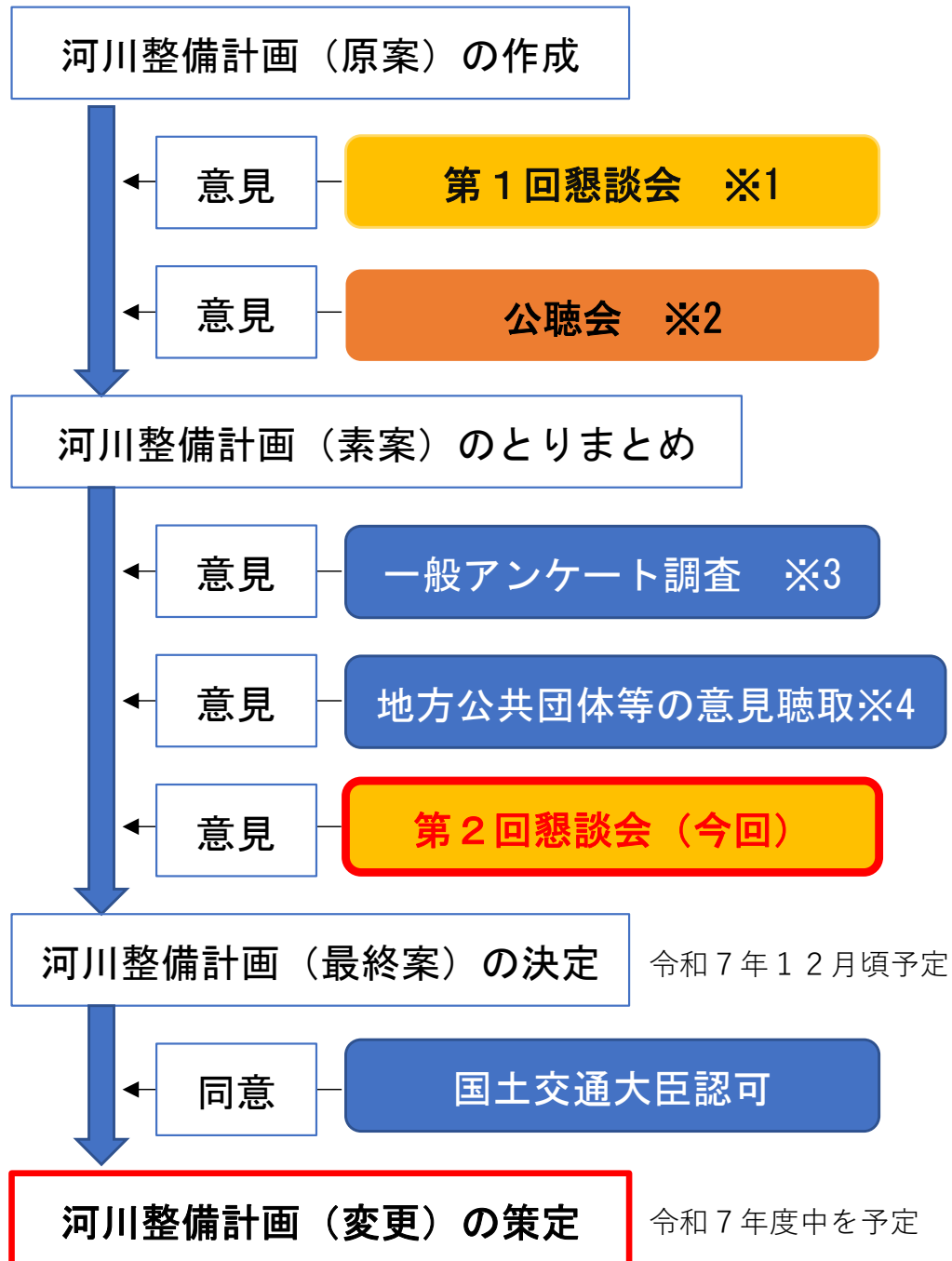
# 令和7年度 第2回 中村川水系河川整備計画懇談会 説明資料

令和7年11月5日

青 森 県

## 1. 中村川水系河川整備計画（変更）策定の流れ

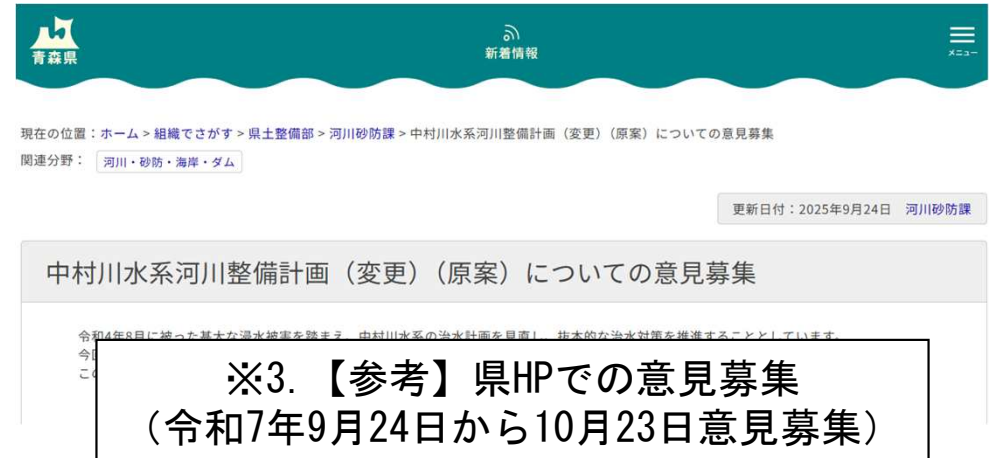
# 中村川水系河川整備計画（変更）策定の流れ



※1. 第1回懇談会  
（令和7年8月19日開催）



※2. 公聴会  
（令和7年9月2日開催）



※4.

## ○関係市町村長の意見聴取

・ 鱒ヶ沢町

## ○関係部局の意見聴取

- ・ 青森県環境エネルギー部（環境担当部局）
- ・ 青森県県土整備部（水道担当部局）
- ・ 東北経済産業局（地方通商産業局）
- ・ 青森県農林水産部（農林水産担当部局）
- ・ 教育庁（文化財保護担当部局）

## 2. 意見の概要と対応（第1回懇談会）

# 主な意見の概要 (1/2)

No.	項目	意見の概要	対応	意見区分
1	現状 (文化歴史)	・ 中村川は河口部以外は遺跡は少ない。中村川水系に寄せた歴史、文化を記載したほうが良い。	本文変更	第1回懇談会
8,9	整備目標 (災害防止)	・ 昭和33年と令和4年の洪水被害範囲を比較し、浸水範囲の特性を理解した上で治水対策を検討するとよい。	本文 記載済	第1回懇談会
10	整備目標 (災害防止)	・ 河道の配分流量が450m <sup>3</sup> /sで、変更後は350m <sup>3</sup> /sを河道以外で受け持つ計画だが、河道分の流量が変わらないのはなぜか。	報告	公聴会
11 ～13	整備目標 (動植物)	・ 中村川では白鳥の飛来、魚などが見られることから、それらに配慮した工事を実施してほしい。	本文 記載済	公聴会
14 ～16	整備目標 (利活用)	・ 護岸が急勾配になり、川に近づきにくくなった。 ・ ふれあい公園の観察施設を復旧してほしい。	報告	公聴会
17	河川整備の実施 (文化歴史)	・ 工事実施の際は、文化財に十分注意して行ってほしい。	本文変更	第1回懇談会
19	河川整備の実施 (治水機能)	・ 治水機能を有する施設の様々な検討結果を知りたい。	本文 記載済	第1回懇談会
20, 21	河川整備の実施 (維持管理)	・ 繁殖力の強い樹木は生態系を意識した管理が必要である。	本文 記載済	第1回懇談会
		・ 川に土砂がたまり樹木が生え、狭くなっている箇所がある。	本文 記載済	公聴会

# 主な意見の概要(2/2)

No.	項目	意見の概要	対応	意見区分
22 ～24	河川整備の実施 (維持管理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河口部は浚渫工事が必要なのではないか。</li> <li>・ 洪水後にどこまで砂がフラッシュされるか検討したらよい。</li> </ul>	報告	第1回懇談会 公聴会
25	河川整備の実施 (魚類)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河道掘削する場合は、魚類の遡上と産卵期である3～6月の時期を避けるよう配慮してほしい。(シロウオ、サケ等)</li> </ul>	本文変更	第1回懇談会
27	流域の取組み (地域防災)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難判断水位など防災情報提供はもちろんのこと、住民の防災意識啓蒙がとても重要である。</li> </ul>	本文変更	第1回懇談会
28, 29	流域の取組み (流域治水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田んぼダムは少しの効果しか期待できないと思う。</li> <li>・ 雨水貯留施設について検討してほしい。</li> </ul>	本文 記載済	第1回懇談会
32～ 37	その他 (R 4 洪水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R4.8月洪水は何m<sup>3</sup>/s流出したのか。</li> <li>・ R4.8月洪水時は河口部の護岸が壊れたため水位が下がった。</li> <li>・ R4.8月洪水の浸水範囲がS33出水より狭いのは国道ができて地盤が高くなったことによるのではないか。</li> <li>・ R4.8月洪水時、鉄道橋に木が引っ掛かり、せき止めたため越水したのではないか。</li> <li>・ R4.8月洪水の氾濫原因は、内水か外水か。</li> </ul>	報告	第1回懇談会 公聴会



# 【No. 1】 本文変更

## 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 5

### 【意見】

- ①中村川水系に寄せた歴史、文化を記載した方がよい。

### 【回答】

- ①歴史、文化について、町の代表するものと中村川水系のものが明確にわかるよう、記載を修正します。



# 【No. 1】 本文変更

## 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P.5【抜粋】

### 1.1.2. 中村川沿川の歴史・文化

中世には弘前藩始祖大浦光信公が種里にねさとに入部し（『津軽一統志』によれば1491年（延徳3年）とされている）、それ以来、その名を歴史の舞台にとどめることとなります。この種里城は平成15年に「史跡津軽氏城跡（種里城跡）」として国の史跡に指定され、弘前城や堀越城と共に大切に保護され、活用されています。

また、中村川流域には「館遺跡（舞戸館）」「中村館」などの遺跡が確認されていますが、鱒ヶ沢町その他河川流域と比べ、遺跡が少ないことから、見つかっていないものや未調査のものが潜在する可能性があります。

#### （凡例）

黒字	： 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	： 第1回懇談会時原案
赤字（黄着色）	： 意見を踏まえた変更箇所



## 【No. 8, 9】 本文記載済

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 19, 21, 27

#### 【意見】

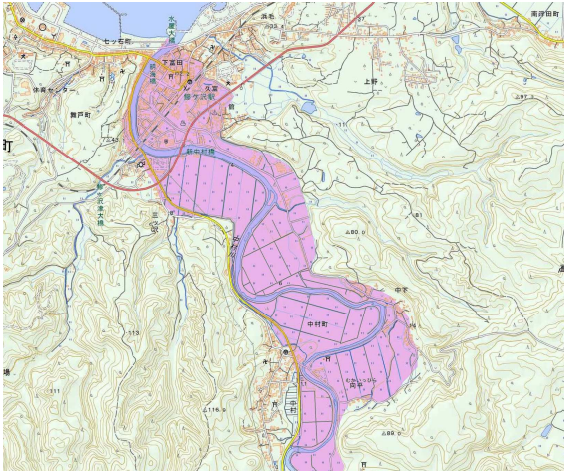
- ⑧昭和33年と令和4年の洪水被害状況を比較し、浸水範囲の特性を理解した上で治水対策を検討するとよい。
- ⑨昭和33年から令和4年まで、短い間隔で災害が発生している。

#### 【回答】

⑧⑨過去の洪水等を踏まえた、洪水による最大規模の浸水被害の範囲についてはハザードマップ等で示されていますが、河道拡幅等のハード整備だけでは防ぎきれない超過洪水については、ハード整備を計画的に進めるのはもちろん、ハザードマップの作成、防災教育、訓練、情報伝達など、住民自ら適切な行動がとれるよう支援するソフト対策の他、流域治水の取り組みを進め、雨水貯留対策、治山対策など、あらゆる関係者で連携していきます。

# 洪水時の浸水範囲の比較

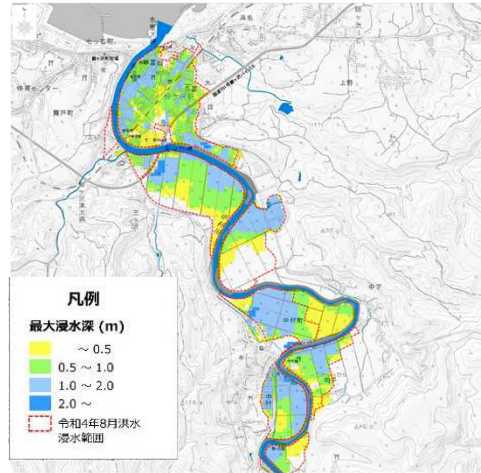
## S33. 8. 10 洪水想定



### 浸水面積（不明）

※浸水面積について715haとしていましたが過去の記録の確認により誤記と判明しました。  
※氾濫解析計算結果ではありません。

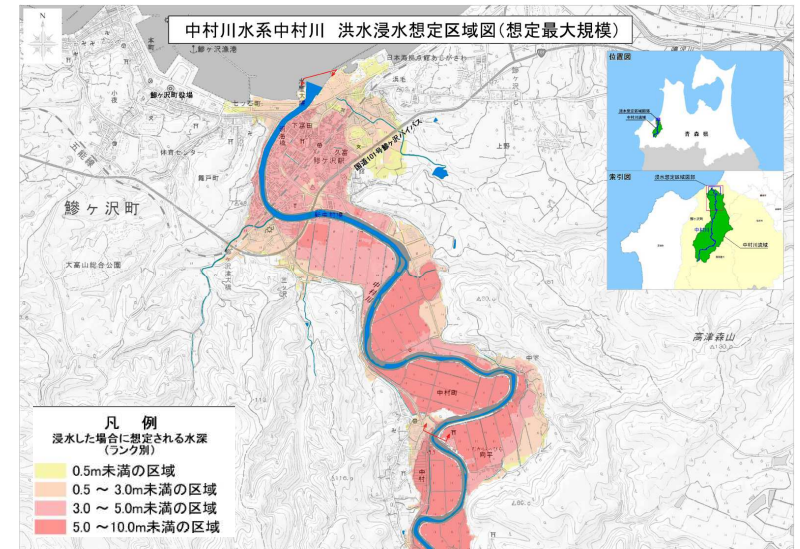
## R4. 8. 9 洪水想定



### 浸水面積（200ha）

※氾濫解析結果より

## 想定最大規模（1/1000）



### 浸水面積（356ha）

※氾濫解析結果より

河道拡幅等のハード整備だけでは防ぎきれない超過洪水については、ハザードマップの作成、防災教育、訓練、情報伝達など、住民自ら適切な行動がとれるよう支援するソフト対策の他、流域治水の取り組みを進め、雨水貯留対策、治山対策など、あらゆる関係者で連携していきます。

# 本文変更

## 治水の沿革（昭和33年8月洪水）P. 7, 8



### 1.2.2. 治水の沿革

中村川の治水事業は、下流部を中心に~~浸水面積 420ha、~~浸水戸数 300 戸の被害を受けた昭和 33 年 8 月洪水、昭和 36 年 4 月の融雪豪雨出水等の度重なる洪水被害を契機に本格的に始まり、昭和 36 年から昭和 41 年にかけて市街地がある河口部の 6.3km 区間が整備されました。

(凡例)	
黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字(黄着色)	: 意見を踏まえた変更箇所



# 【No. 10】 報告

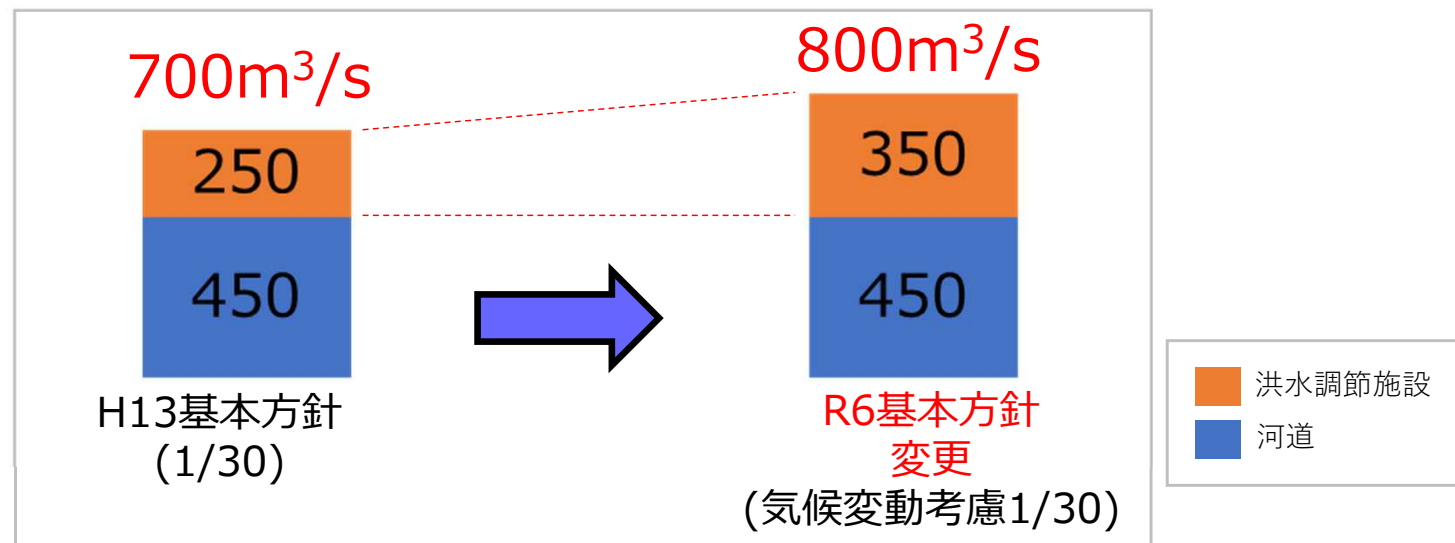
## 中村川水系河川整備計画(変更)(原案)

### 【意見】

⑩現行と変更後の河川で受け入れられる量が450 m<sup>3</sup> /sで変わらず、変更後は、残り350 m<sup>3</sup> /sを河川以外で受け止めようとしている計画だが、川で受け止める量がかわらないのはなぜか。

### 【回答】

⑩河道拡幅等により河川で受け持つ流量を増やす場合、河川沿いにある多くの民家を移転補償することになるのに加え、近年施工した橋梁の再架替えが生じることとなり、地域社会や幹線交通へ与える影響が非常に大きくなることを考慮し、河道の配分流量を変えないこととしています。



基本高水流量及び配分流量の変更

## 【No. 11～13】 本文記載済

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 20, 22

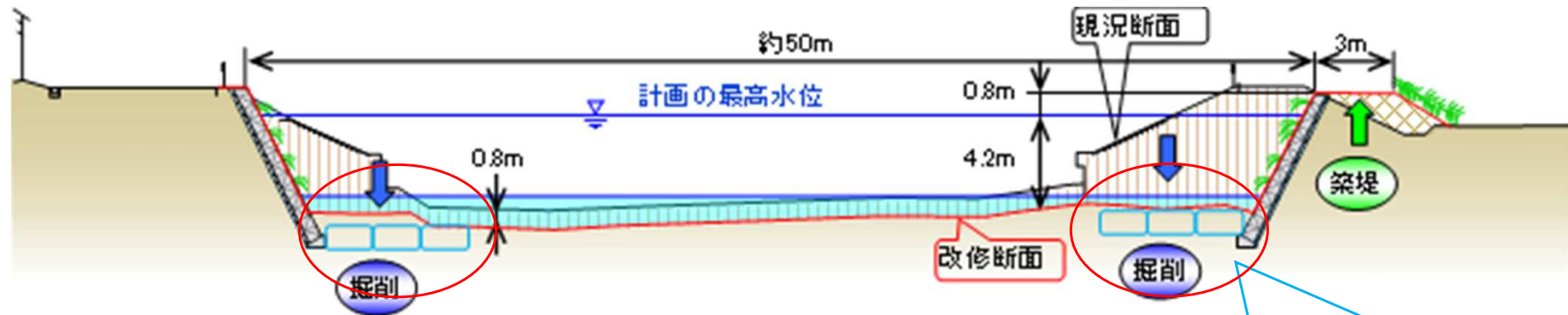
#### 【意見】

- ⑪周辺に生息・生育する動植物調査を十分に行い、これらへの影響を極力与えないように取り組んでほしい。
- ⑫鉄道橋付近にある根固めブロックが白鳥や魚類の住処となっているため、ブロックの撤去はやめてほしい。
- ⑬新中村橋付近に白鳥が飛来しており、町の観光の見どころでもあるため、遊歩道を整備した方が良いのではないか。

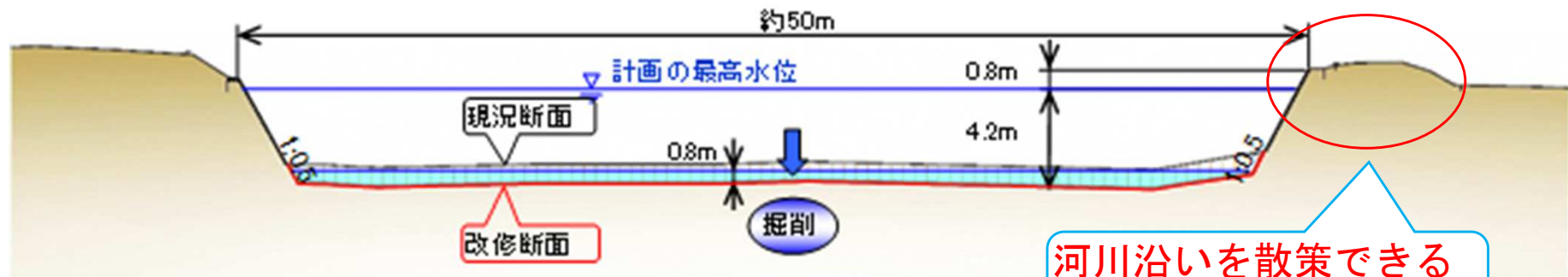
#### 【回答】

- ⑪河川の整備にあたっては、周辺に生息・生育する動植物調査を充分に行い、これらの影響を極力少なくし、良好な環境の保全を図ります。
- ⑫ブロックは撤去してしまいましたが、袋詰玉石等の設置により、水際環境の改善や生物の移動に配慮します。
- ⑬河川沿いを散策できるよう通路を確保します。

# 河川工事における環境配慮



袋詰玉石等の設置により、水際環境の改善や生物の移動に配慮する。



河川沿いを散策できる  
よう通路を確保する



## 【No. 14～16】 報告

### 【意見】

- ⑭河道整備前は、**シロウオ漁**など川と親しんで暮らしていた。河道整備後、急勾配の護岸になり、治水には効果があると思うが、**川に近づきにくくなった**。
- ⑮中村川に**サケの捕獲施設**があるため、サケのことも考えてもらいたい。
- ⑯**ふれあい公園**に川の中を観察できる施設を作っているが、現在は苔が生えている。この施設はそのまま残していくのか。

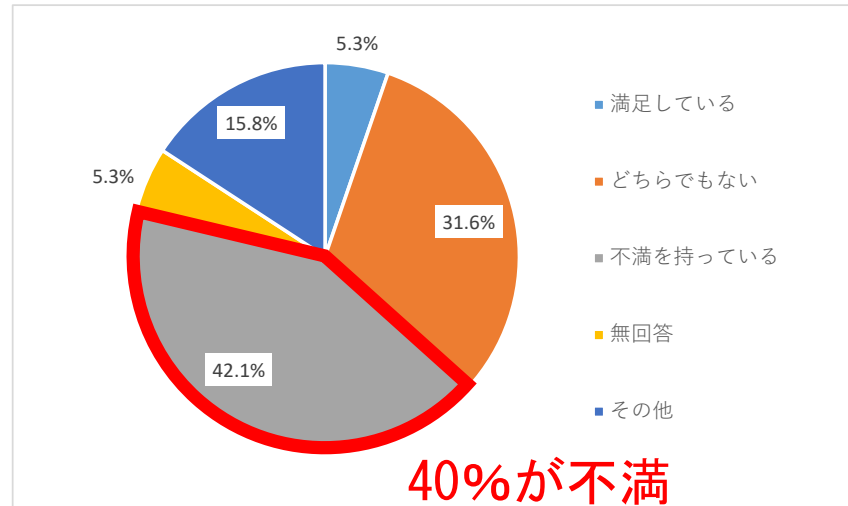
### 【回答】

- ⑭以前と比べて急勾配の護岸になりますが、階段を配置し水辺に近づけるよう配慮しています。
- ⑮サケの捕獲施設は管理者の意向で撤去しており、現在はありませんが、引き続きサケ等の生息・生育環境に配慮し、河川整備を進めてまいります。
- ⑯ふれあい公園施設は昨年から改修中です。整備後は川の中が観察でき、体験学習の場として活用できるようになります。

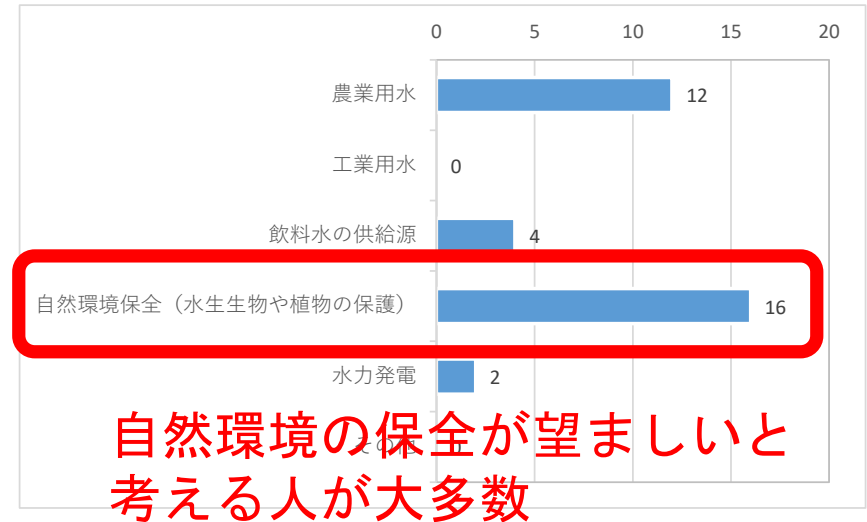


# 河川環境に関する住民の意識

中村川の“河川環境”について、どう思われますか？

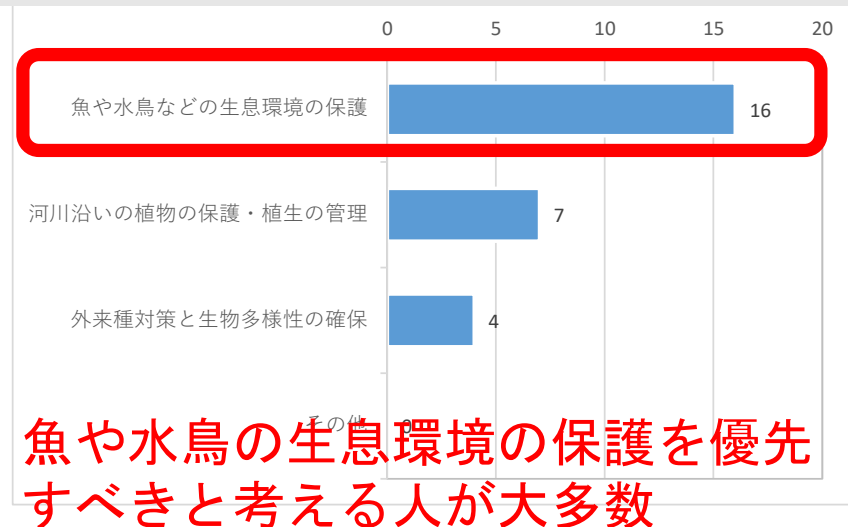


河川の水をどのように活用している、または活用が望ましいと思いますか？



自然環境の保全が望ましいと考える人が大多数

どのような自然環境を優先して保護・整備すべきだと思いますか？



魚や水鳥の生息環境の保護を優先すべきと考える人が大多数

河川の景観に対して、どのような整備が必要だと思いますか？



整備された歩道などで人々が利用しやすくなる整備が必要と考える人が大多数

## 【No. 17】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 21

#### 【意見】

- ⑰今回視察した中村橋の手前も見える丘は城跡であり、この裾の方が中村川の浸食により削られている印象を受けた。そういったものを保護することも必要な観点ではないか。

#### 【回答】

- ⑰文化財包蔵地内で掘削を伴う工事を行う際には、文化財保護部局と事前に調整の上で、必要に応じて遺跡調査等に協力しているところです。中村橋付近で河川に関する工事を実施する際には十分注意します。

#### 3. 1. 2. 河川工事の種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

河川工事は、下記の場所において、築堤、掘削、護岸及び JR 鉄道橋の架替等による河川改修を行い 450m<sup>3</sup>/s の流量が流下可能となるよう河積の拡大を行います。

工事の実施に当っては、魚類の生息・生育環境や保護の対象となる文化財等を踏まえ、関係機関と調整し、環境への影響が軽減されるよう、施工時期や施工方法に配慮します。

#### (凡例)

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字(黄着色)	: 意見を踏まえた変更箇所

【意見】

⑭洪水調節施設について、現実的にダムかもしれないが、遊水地や放水路等、様々な検討結果を聞かせて頂けるとよい。

【回答】

⑭現在考えられる対策案として、ダム、遊水池、放水路、河道の掘削、引堤などがありますが、今後、実施を予定している治水機能増強検討調査のなかで、詳細に検討を行っていきます。

3.1.3. 中上流部における治水機能増強検討調査

既存施設を最大限活用した事前放流や操作方法等について調査・検討を行います。

また、さらに洪水調節機能の増強が必要な場合には、既存施設の放流能力の増強・堤体の嵩上げ、新設ダム等に関する調査・検討を行います。

【意見】

- ②⑩洪水調節施設を確保することは重要であるが、こういった施設に繁殖力の強い木が生えてしまっているため、維持管理を念頭に入れて、検討する必要がある。
- ②⑪中村橋付近で河川に土がたまり木が生えていて川が狭くなっている箇所がある。

【回答】

- ②⑩②⑪河川区域の土砂の堆積や樹木等については、洪水の流下に阻害となる場合、効果が確実に発揮されるよう、河床掘削や伐採等の対策を講じます。

3. 2. 2. 河川の維持の目的及び種類

(2) 河道及び河口の維持

河道及び河口部の土砂の堆積や河川区域の樹木等については、堆積状況等の把握に努め、洪水の流下に阻害となる場合は、治水、利水、河川環境面での機能を十分に考慮した上で、必要に応じて河床掘削や伐採等の対策を講じ、実施に際しては、河床の安定や魚類等の生息・生育環境の保全に配慮します。



### 【意見】

- ②② 今回の洪水の後、どこまでフラッシュされたのか写真をできる限り集め、河口の粒経や比重を調べれば洪水450m<sup>3</sup>/s流れるときに河口にたまった砂が吐き出されるかどうか簡単に計算で出すことができるため、事務局に検討してもらおうことにする。
- ②③ 河口部の浚渫工事が必要なのではないか。
- ②④ 河口に砂がたまっているが、どんな対策を考えているのか。

### 【回答】

- ②②②③ 過去の検討において、一定程度の洪水により、河口にたまった砂がフラッシュされることが分かっています。  
なお、河口部の土砂堆積は、令和4年洪水の時の地元意見も踏まえ、河口部で測量などを実施しています。今後も検討の対象として含めていきたいと思っています。
- ②④ 管理している漁港整備事務所と協議して支障があるようであれば撤去するように協議を進めていきます。



# 河口部の土砂堆積



砂州が発達し始めたころ



R4洪水で砂州の形状が変化したと思われる



融雪出水時にフラッシュしている様子が確認できる

過去の検討において、一定程度の洪水により河口にたまった砂がフラッシュされることが分かっています。河口部の堆砂は、令和4年8月洪水後の地元意見も踏まえ、河口部の測量調査を実施しており、今後の検討対象としていきます。



## 【No. 25】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 24

#### 【意見】

②⑤河道の掘削は、魚類の遡上と産卵期である、3～6月の時期を避けるよう配慮してもらえると良い。

#### 【意見】

②⑤河道掘削工事を行う際は、魚類の遡上や産卵期に配慮します。

#### 3. 2. 河川の維持の目的及び種類

##### 3. 2. 2. 河川の維持の目的及び種類

##### (2) 河道及び河口の維持

河道及び河口部の土砂の堆積や河川区域の樹木等については、堆積状況等の把握に努め、洪水の流下に阻害となる場合は、治水、利水、河川環境面での機能を十分に考慮した上で、必要に応じて河床掘削や伐採等の対策を講じ、実施に際しては、河床の安定や魚類等の遡上や産卵をはじめとした動植物の多様な生息・生育環境の保全に配慮します。

#### (凡例)

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字(黄着色)	: 意見を踏まえた変更箇所

# 【No. 27】 本文変更

## 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 25

### 【意見】

②⑦河川管理者として避難判断水位等の防災情報を多様な媒体により迅速に情報提供を行うことはもちろんであるが、住民側も迅速な避難行動をとるために能動的に河川情報を得るよう努める必要がある。

### 【回答】

②⑦住民が日頃から、自分で確認するといった習慣づけが重要になるので、平常時からマスコミや広報、防災無線といった多重手段での情報提供に努めていきます。

### 【抜粋】

#### 4. 河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等に関する事項

##### 4.1.1. 常時の情報提供

中村川を適切に整備・保全する気運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで積極的に創り出すための河川愛護・美化の普及を促すためし、また、非常時には住民自ら迅速な避難行動がとれるよう、河川管理者として収集した河川に関する情報（水位、水質、水量、動植物の生態、新規事業等）をインターネット・SNS等の多様な媒体を通して公開し、地域住民との情報の共有化を図るものとします。

#### (凡例)

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字(黄着色)	: 意見を踏まえた変更箇所

【意見】

- ⑳原案 表1-2「地域住民の命と暮らしを守る取り組み」で㉔の雨水貯留の実践とあるが、具体的になにか。
- ㉔**田んぼダム**は、流域に対して最低でも5%ないと効果が発揮できないが、中村川流域では、3%弱であるため、少ししか効果が期待できない。

【回答】

- ㉔中村川における雨水貯留の具体的メニューとしては、田んぼダムのほか、雨水貯留・浸透施設を検討しています。一般的な具体例としては、校庭への一時貯留、駐車場を浸透性舗装にする等の対策があります。
- ㉔中村川流域における田んぼダムの効果は限定的なものとなるかもしれないが、流域の関係者が協働して総合的な浸水被害対策を進める必要があると認識の下、田んぼダム等治水機能を内包するあらゆる施設の利活用の普及・啓発を図ることとしています。



# 流域治水の取り組み状況(1)

## 中村川流域治水緊急対策の概要（25の取組メニュー）



図 4-2 中村川流域治水緊急対策（令和5年3月策定）

## 緊急対策メニュー ① 森林整備、砂防・治山対策の推進

### 取組1 森林整備【林野庁、森林所有者等、森林整備センター、県】

中村川流域の森林において、上木の伐採や苗木の植付、下刈を実施します。

治山ダムによる渓流の保全

### 取組2 砂防【県】

鹿子石2号区域において、斜面の崩壊対策工事を進めます。

### 取組3 治山対策【林野庁、県】

令和7年度以降、中村川流域の治山施設（治山ダム等）の点検を実施し、必要に応じ治山施設の機能向上を図ります。

R6既設治山ダム（嵩上げ工）

複層林の整備状況



鹿子石2号区域 整備前の斜面



## 緊急対策メニュー ② 雨水貯留の実践

### 取組4 水田貯留（田んぼダム）【水田所有者、町、県】

中村川流域の中村地区において、町が購入する「田んぼダム用調整堰板」を、約1.2haの水田に設置して効果を確認するとともに、引き続き関係農家に対して「田んぼダム」の取組に係る普及・啓発を図ります。

### 取組5 雨水貯留・浸透施設の設置【町、県】

事業計画（施設位置、規模、手法等）を検討中です。

調整堰板設置状況



## 緊急対策メニュー ③ 災害復旧・河川改修の加速

### 取組6 被災施設の早期復旧【町、県】

令和6年度末までに、町による災害復旧工事が完了しました。

令和6年度 護岸完了

### 取組7 河川改修【県】

### 取組8 人道橋架替【県】

### 取組9 鉄道橋架替【県、JR】

関係機関との協議のうえ設計を実施します。



舞戸橋上流左岸



# 流域治水の取り組み状況(2)

## 緊急対策メニュー ④ 新たな河川整備等に関する計画策定

### 取組10 河川整備計画の変更【県】

ダムや遊水地等の洪水調節施設の可能性を引き続き検討します

### 取組11 気候変動を踏まえた河川整備基本方針の検討【県】

気候変動のスピード感に対応するため、当初の計画より前倒しで検討を進め、令和7年3月に方針を変更しました。

### 取組12 流域水害対策計画の策定（特定都市河川の指定）【県、町、市】

令和6年7月に中村川等を特定都市河川に指定しました。  
令和7年度は流域水害対策計画の策定に向け、検討を進めます。

## 緊急対策メニュー ⑤ 雨水排水施設の整備（市街部）

### 取組13 雨水排水環境の調査【町、県】

### 取組14 雨水排水施設の整備【町、県】

令和6年度までは、排水施設の環境調査、詳細設計を進めてきました。  
令和7年度は工事を発注予定です。

既存の排水機場



## 緊急対策メニュー ⑥ 水害を踏まえたまちづくりの検討

### 取組15 水害リスクのより低い区域への誘導（3D都市モデル構築、立地適正化計画の策定検討）【町、県】

令和7年度は災害リスクを可視化した3D都市モデルを構築し、立地適正化計画策定の基礎資料とします。

### 取組16 住まい方の工夫（災害危険区域の指定検討）【町、県】

指定について検討中です。

## 緊急対策メニュー ⑦ 水害リスク情報・河川情報の充実

### 取組17 水害リスクマップの作成【県】

### 取組18 内水ハザードマップの作成・公表【町】

排水環境の調査結果をもとに内水ハザードマップを作成しました。（令和7年4月公表）

## 緊急対策メニュー ⑦ 水害リスク情報・河川情報の充実

### 取組19 浸水想定水位看板の増設【県】

### 取組20 水位観測所・監視カメラなどの増設【県】

設置箇所等を調査中です。

### 取組21 浸水センサの設置【町、県】

令和6年度から浸水範囲内に設置した80個の浸水センサの運用を開始しました。



## 緊急対策メニュー ⑧ 地域防災力の向上

### 取組22 水防体制の強化【水防団、町、県】

堤防点検を実施します。また水防資材の備蓄を充実します。

### 取組23 自主防災組織の設立【住民、町、県】

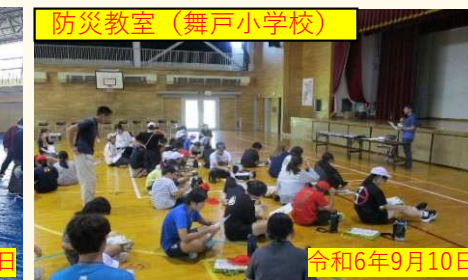
自主防災組織の結成・活動促進に向けた研修会を開催します。

### 取組24 避難訓練の実施【住民、町、県】

大雨を想定した住民避難訓練、避難所運営訓練を実施します。

### 取組25 防災に関する普及・啓発、防災教育等の実施【住民、気象庁、町、県】

町内の小中学校で防災教育を実施します。





## 【No. 32～37】 報告

### 【意見】

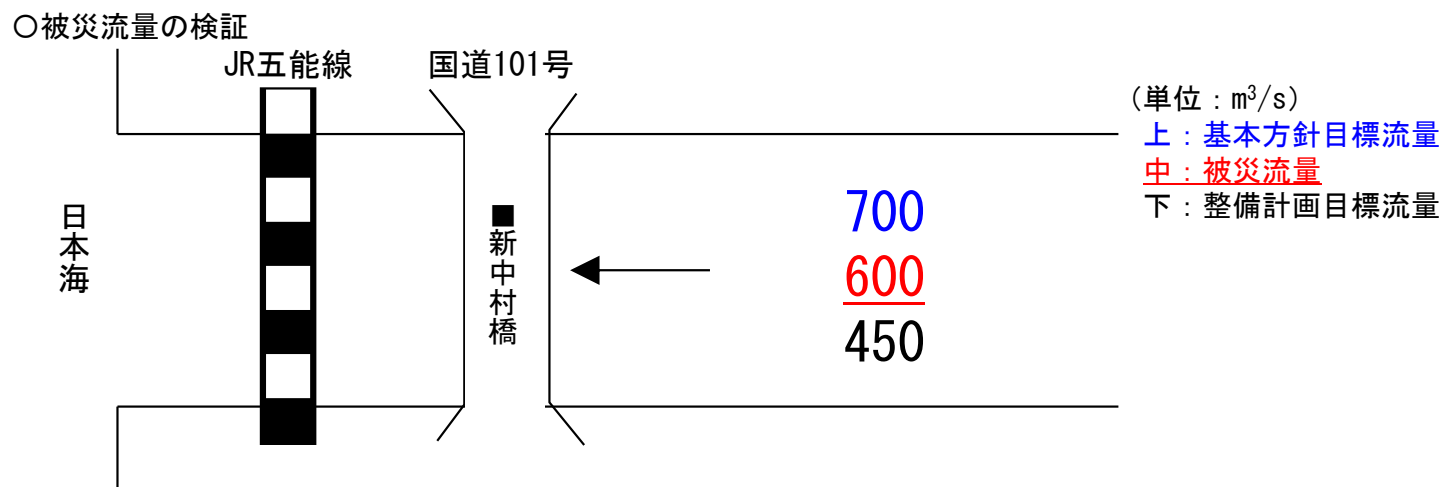
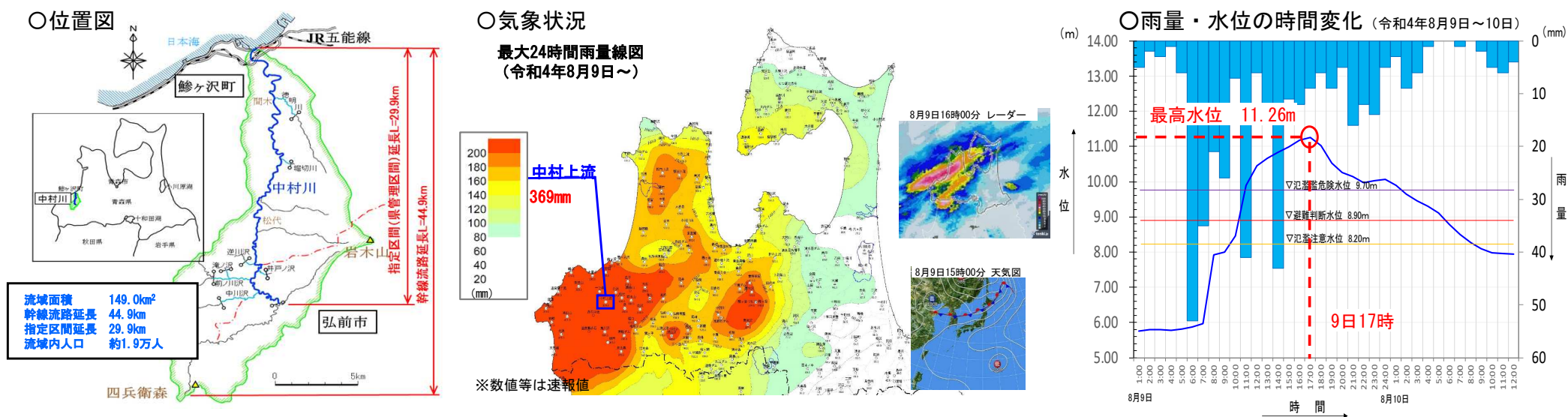
- ③②令和4年の出水時は何 $\text{m}^3/\text{s}$ 流れていたのか。
- ③③令和4年洪水は河口部の護岸が壊れたため水位が下がっていた。
- ③④令和4年8月洪水の浸水範囲が昭和33年洪水よりも狭くなったのは、国道が高くなったり地盤が高くなったことによるものでないか。
- ③⑤令和4年8月洪水時、鉄道橋に大きな木が引っ掛かり、せき止めていたので、堤防越水の原因の一つかと思う。
- ③⑥③⑦令和4年8月洪水の氾濫原因は内水・外水どちらか。

### 【回答】

- ③②令和4年8月洪水時は、現在の整備計画流量の $450\text{m}^3/\text{s}$ を上回る、約 $600\text{m}^3/\text{s}$ 程度が流出していたと推定しています。
- ③③令和4年洪水時、町内では、道路等に備わっている地域の排水機能を上回る雨により冠水が発生し、また上流で堤防を越水した水が下流で川に戻るといったことが起きていたと想定されます。
- ③④道路等が高くなったことや河川改修が進んだことにより、浸水範囲が狭くなったと考えられます。
- ③⑤JR橋付近の未改修区間は河道断面が狭く、湾曲していることから、JR橋上流における水位のせき上がり等、複合的な要因により外水氾濫が発生したと考えています。
- ③⑥③⑦内水氾濫と外水氾濫のどちらの現象も起きており、複合的に発生したものと考えています。

## 令和4年8月洪水の状況

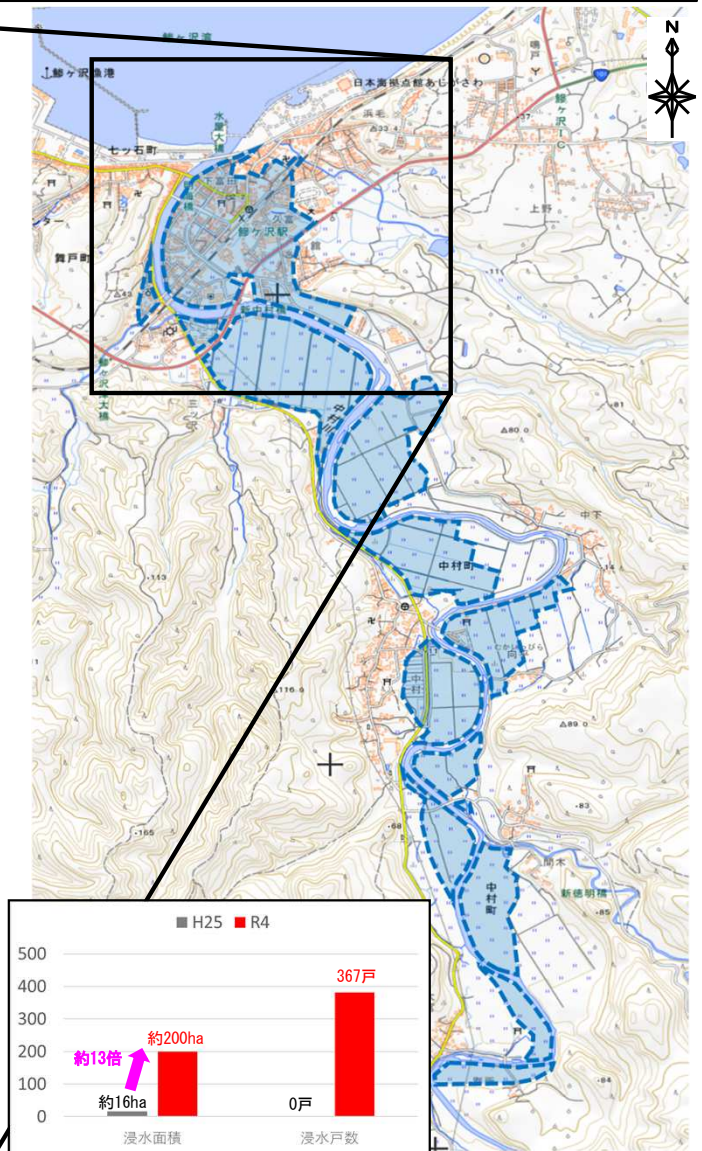
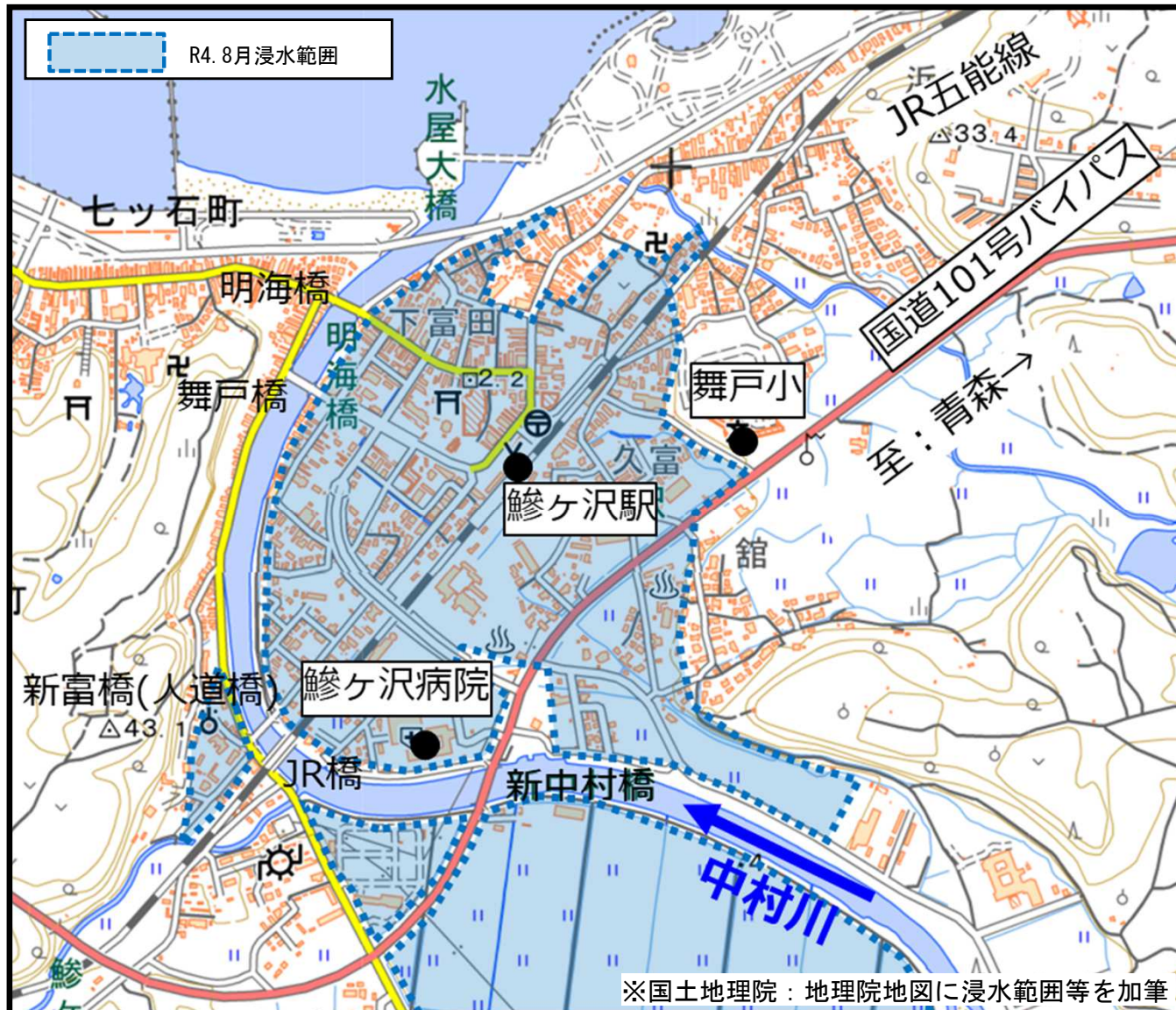
- 現在の河川整備計画は河道で450m<sup>3</sup>/sを安全に流すことを目指していましたが、河川整備が完了する前に令和4年8月洪水が発生してしまいました。
- 令和4年8月9日から的大雨により、中村川上流雨量観測所では最大24時間雨量が369mmに達し、これは2001年の観測開始以来、最大の降雨量となりました。
- 中村川の中村水位観測所では最高水位T.P. +11.26mに達し、氾濫危険水位を大きく上回りました。
- 上記の観測結果をもとに算出した新中村橋地点の被災流量は、整備計画目標流量を上回る600m<sup>3</sup>/sでした。





# 令和4年8月洪水の検証

- 中村川の中上流部では、堤防から越水した外水氾濫により農地約160haが浸水しました。
- また、下流部市街地では、低い土地での内水氾濫及び堤防から越水した外水氾濫により、**床上305戸、床下62戸、  
浸水面積40haの浸水被害**が発生しました。





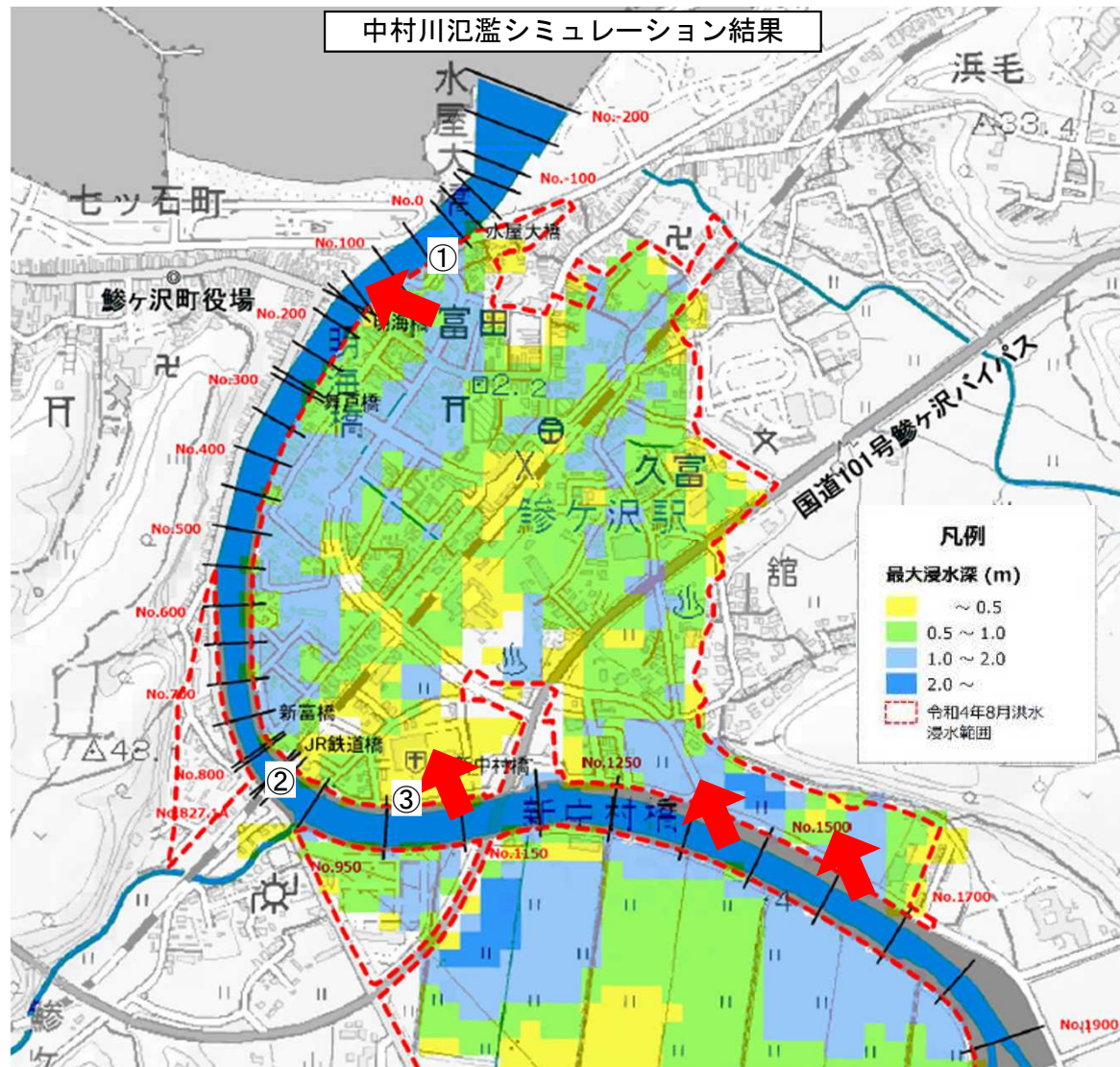
# 令和4年8月洪水の検証（内外水）

## ＜外水氾濫のメカニズム＞

- ・ JR橋付近の未改修区間は河道断面が狭く、湾曲していることから、JR橋上流における水位のせき上がり等、複合的な要因により外水氾濫が発生しました。

## ＜内水氾濫のメカニズム＞

- ・ 市街地での降雨に対し、河川への排水が追いつかず地盤が低い土地では内水氾濫が発生しました。



### 3. 意見の概要と対応（地方公共団体等・公聴会）

## 【No. 2】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 5

#### 【意見】

②「世界最大級の原生的なブナ林」を「東アジア最大級のブナ林」に修正してください。

#### 【回答】

②意見を踏まえ、修正します。

また、岩木山、白神山地などの豊富な自然環境に恵まれており、平成5年には~~世界最大級の原生的な~~東アジア最大級のブナ林が評価され、「白神山地」が世界自然遺産に登録されています。

#### (凡例)

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字(黄着色)	: 意見を踏まえた変更箇所



## 【No. 3】 本文変更

# 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 11

### 【意見】

③「白沢川」を水源として給水する旧芦荻地区簡易水道事業は、平成29年に現在の「鯉ヶ沢町水道事業」(上水道事業)に統合されており、「白沢川」から、「簡易水道用水」ではなく、「水道用水」として取水しているため、「簡易水道用水」から「水道用水」に表記を修正したい。

### 【回答】

③「簡易水道用水」から「水道用水」に表記を修正します。

## 1. 3. 水利用及び水量、水質の現状と課題

### 1. 3. 1. 水利用の現状

中村川では農業用水、発電用水、水道用水として流水が利用されています。

中村川本川に係わる水利権は農業用水として普通期で約  $0.94 \text{ m}^3/\text{s}$ 、発電用水として最大約  $5.20 \text{ m}^3/\text{s}$  です。支川に係わる水利権は農業用水として普通期で約  $0.44 \text{ m}^3/\text{s}$ 、発電用水として最大約  $0.50 \text{ m}^3/\text{s}$ 、簡易水道用水として約  $0.002 \text{ m}^3/\text{s}$  となっています。

(凡例)

黒字 : 現行の河川整備計画に記載がある箇所

赤字 : 第1回懇談会時原案

赤字(黄着色) : 意見を踏まえた変更箇所

## 【No. 4】 本文変更

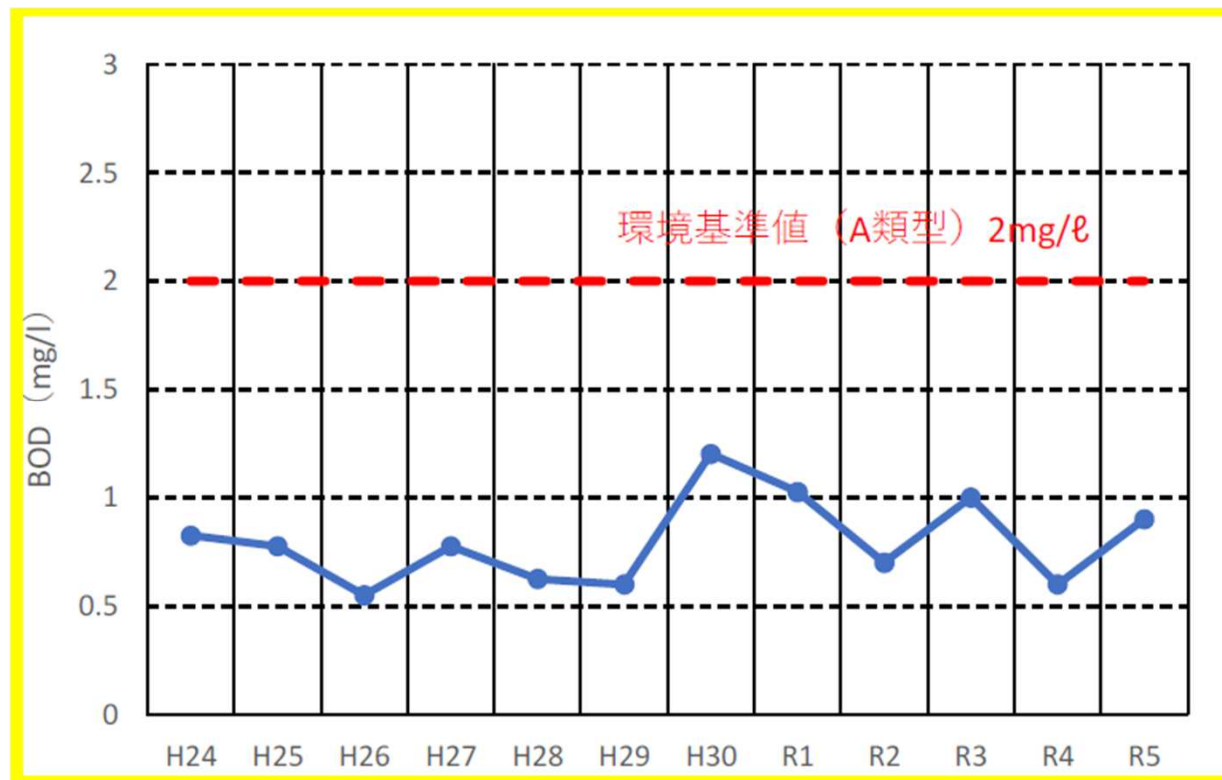
### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 13

#### 【意見】

④図1-15 令和5年度のBODの結果 (0.9mg/L) を追加してください。

#### 【回答】

④意見を踏まえ、追加します。



(凡例)

黒字 : 現行の河川整備計画に記載がある箇所

赤字 : 第1回懇談会時原案

赤字(黄着色) : 意見を踏まえた変更箇所

## 【No. 5】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 16

#### 【意見】

⑤本文4行目の「ホンドザル」及び写真の「ホンドザル（地域個体群）」  
青森県レッドデータブックでは、ホンドザルではなく地域限定希少野生生物（LP）として津軽半島の「ニホンザル」が掲載されている。国土交通省のホームページでは、津軽半島に鱒ヶ沢町は含まれていないことから、本文の「ホンドザル」、写真の「ホンドザル（地域個体群）」という表記の根拠を確認し、県のレッドデータブックが根拠だった場合には、ホンドザル（地域個体群）ではないため、記載を修正してください。

#### 【回答】

⑤意見を踏まえ、修正します。

沿川の大部分が山地である上流部は、瀬や淵が発達し溪流の様相を呈し、人為的影響もなく多様な溪流環境が存在し、良好な自然環境が形成されています。上流部は、東側が津軽国定公園、岩木高原県立自然公園区域で、植生は主として世界遺産の白神山地から続くブナ林からなり、そこには、ニホンザルや特別天然記念物のニホンカモシカ、ホンドザルを始めとする哺乳類や、「~~レッドリスト（青森県）~~」「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック（2020年版）－」に挙げられているクマタカをはじめ、天然記念物のイヌワシ等の鳥類、~~稀産種である~~オニシオガマや~~ユマガタケスグリハクサンハタザオ~~といった植物等、多種多様な動植物が生息・生育しており、世界遺産白神山地と岩木山をつなぐ回廊としても重要な自然環境となっています。

（凡例）

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字（黄着色）	: 意見を踏まえた変更箇所

## 【No. 6】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 16

#### 【意見】

- ⑥「レッドリスト（青森県）」最新版は、「青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック（2020年版）-」のため修正してください。

#### 【回答】

- ⑥意見を踏まえ、修正します。

沿川の大部分が山地である上流部は、瀬や淵が発達し溪流の様相を呈し、人為的影響もなく多様な溪流環境が存在し、良好な自然環境が形成されています。上流部は、東側が津軽国定公園、岩木高原県立自然公園区域で、植生は主として世界遺産の白神山地から続くブナ林からなり、そこには、ニホンザルや特別天然記念物のニホンカモシカ、~~ホンダザル~~を始めとする哺乳類や、「~~レッドリスト（青森県）~~」「~~青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック（2020年版）-~~」に挙げられているクマタカをはじめ、天然記念物のイヌワシ等の鳥類、~~稀産種である~~オニシオガマや~~コマガタケスダリハクサンハタザオ~~といった植物等、多種多様な動植物が生息・生育しており、世界遺産白神山地と岩木山をつなぐ回廊としても重要な自然環境となっています。

#### （凡例）

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字（黄着色）	: 意見を踏まえた変更箇所



## 【No. 7】 本文変更

### 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 16

#### 【意見】

本文5～6行目「クマタカ」「イヌワシ」「オニシオガマ」「コマガタケスグリ」  
コマガタケスグリは、本件のレッドデータブックに掲載されていない種である。

「クマタカ」「イヌワシ」「オニシオガマ」は掲載されており、「コマガタケスグリ」も掲載されているように誤解されるおそれがあるため、別の種に置き換えるなどの修正を検討願います。

#### 【回答】

意見を踏まえ、修正します。

沿川の大部分が山地である上流部は、瀬や淵が発達し溪流の様相を呈し、人為的影響もなく多様な溪流環境が存在し、良好な自然環境が形成されています。上流部は、東側が津軽国定公園、岩木高原県立自然公園区域で、植生は主として世界遺産の白神山地から続くブナ林からなり、そこには、ニホンザルや特別天然記念物のニホンカモシカ、~~ホンダザル~~を始めとする哺乳類や、~~「レッドリスト（青森県）」~~「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック（2020年版）－」に挙げられているクマタカをはじめ、天然記念物のイヌワシ等の鳥類、~~稀産種である~~オニシオガマや~~コマガタケスグリハクサンハタザオ~~といった植物等、多種多様な動植物が生息・生育しており、世界遺産白神山地と岩木山をつなぐ回廊としても重要な自然環境となっています。

#### （凡例）

黒字	: 現行の河川整備計画に記載がある箇所
赤字	: 第1回懇談会時原案
赤字（黄着色）	: 意見を踏まえた変更箇所



## 【No. 18】 報告

### 【意見】

⑮新富橋は、お年寄りや子供たちにとって重要な橋であり、架け替えに伴い、何年も通行できないとかなり影響があると思う。

### 【回答】

⑮通行に影響がないよう、新橋を架けたのちに旧橋を撤去する計画としています。

## 【No. 26】 報告

### 【意見】

②⑥親水公園までハゼは遡上しないため、ハゼ釣りは舞戸橋付近の階段護岸でやるしかないが、そこに仮設に使用した土嚢の帯が沈んでいた。釣りをしていると引っかかるため撤去してほしい。

### 【回答】

②⑥土のう袋については撤去します。

### 【意見】

③⑩内水氾濫の原因として、町内の側溝の維持管理が、重要であると思う。町か県かわからないが、現状を地域の人に聞きながら維持管理していけばよいと思う。

### 【回答】

③⑩側溝は一般的に、10年に1回程度溢れる確率の降雨に対応するよう設計されています。可能な限り県と町が協力して維持管理を実施していきます。

# 【No. 31】 本文変更

## 中村川水系河川整備計画(変更)(原案) P. 27

### 【意見】

#### ③1 単位の標記

「立法メートル」について、「 $m^3$ 」と「 $m^3$ 」（3が上付き）と「 $m^3$ 」（環境依存文字）の表記のゆれがあるため、いずれかに統一していただきたい。

### 【回答】

③1 「 $m^3$ 」（3が上付き）に統一しました。

### 【抜粋】

中村川においては、安全で安心して暮らせる川づくりを目指し、年超過確率 1/30 規模の洪水（ $800m^3/s$ ）を安全に流下させることを目標とします。引き続き、年超過確率 1/10 の規模の洪水（ $450m^3/s$ ）について安全に流下させる河道整備を進めるのに加え、令和 4 年 8 月洪水及び年超過確率 1/30 の規模の洪水（ $800m^3/s$ ）を安全に流下させるため、既存施設の活用及び新たな洪水調節施設を取り入れた最適な施設整備の組み合わせについて、必要な調査・検討を行い、洪水調節機能の確保を図ります。

また、特定都市河川浸水被害対策法の法的枠組を活用し、治水施設の整備と併せて、雨水流出の抑制や土地利用規制などの流域一体となった浸水被害防止に取り組むとともに、流域の保水・遊水機能を適切に確保します。

表 2-2 主要地点における河道の配分流量

河川名	地点名	地先名等	整備計画 目標流量	洪水調節施設等 による調節量	河道の整備 目標流量
中村川	新中村橋	青森県西津軽郡 鰺ヶ沢町大字舞戸町	$800m^3/s$	$350m^3/s$	$450m^3/s$

（凡例）

黒字 : 現行の河川整備計画に記載がある箇所  
赤字 : 第1回懇談会時原案  
赤字（黄着色） : 意見を踏まえた変更箇所